

## 平成 30 年度第 2 回総合事業サービスワーキンググループにおける主なご意見

1 月 11 日に開催した「総合事業サービスワーキンググループ」において、委員の皆様よりいただいた主な意見は以下の通り。

### ① 介護予防通所サービスの提供における目標設定・実績評価について

- ・実績評価レポートは、他と比較できる形でフィードバックしていただけると、自分の事業所の改善すべき点がわかったり、他の事業所の取組を参考にできたりと、相乗効果もあって全体的な質の向上に有効活用できるかと思う。
- ・ケアマネジャーの立場でも、この人は、どういう種類のデイサービスが良いのか、目標を達成していくための一つの指標にはなると思う。ただ、単純集計であり、絶対的なものではないことの注釈は必要。

### ② 介護予防通所サービスの利用者負担の見直しについて

#### (ア) 短時間（3 時間未満）利用した場合の料金を設ける

- ・短時間利用だと人件費が少ないという考え方はあると思うが、実態はそんなに単純ではなく、それで報酬が減るのは納得しにくい。
- ・3 時間だから簡単で楽というものではない。スタッフのシフトやサービス提供の仕方など、努力しないとできない。
- ・フレイル予防のための短時間利用も、認知症もあり高齢でレスパイトも必要な方の閉じこもりを防止するための 7 時間利用も、デイサービスの役割で、状態像に合わせたサービスをケアマネジメントにもとづいて提供している。だから包括報酬であり、予防給付のときから時間の考え方はないと理解している。
- ・短時間でも包括報酬のため同じ金額をもらえるなら短時間のところが増えるかもしれない、やはり時間も重要な視点だと思う。引き続き検討が必要。

#### (イ) 送迎の利用がない場合の料金を設ける

- ・提供していないサービスに関して、明らかにコストのかかっていない部分を見直すという考え方は理解できる。
- ・送迎はルートの選定、ドライバーや車の確保、事故の危険など大変なので、送迎の有無で分けるのは妥当。
- ・短時間のサービスだと長時間のサービスに比べて送迎のコストが増える。このため、送迎の有無で料金に差を付けることは合理的。

#### (ウ) 入浴の利用がない場合の料金を設ける

- ・「送迎なし」と「入浴なし」の組み合わせは、現行の 65% の報酬となり、現実的に困難。

#### (その他)

- ・利用者視点での負担の公平性の検討も必要。

### ③ 総合事業の今後の方向性について

#### (ア) 総合事業の今後の方向性について

##### 1) 市民への効果的な情報発信

- ・あんしんすこやかセンター職員やケアマネジャーへ、フレイルを啓発するための研修を繰り返ししてもらったら、利用者に説明する際に参考になると思う。
- ・「フレイル」の言葉はまだ浸透していない。高齢者になって、聞き慣れない言葉が耳に入っていない。
- ・「ボランティア」「リハビリ」もなかなか浸透しなかった。片仮名英語が定着するには、なかなか時間がかかる。

## 2)適切なサービス支援へのつなぎ

- ・住民主体訪問サービスに参加しているが、ケアマネジャーにまだまだ理解はされていない。告知して、もう少し浸透させて欲しい。
- ・フレイル関連事業について、各区1か所では恐らくつながらない。神戸市のような大きな自治体では、必要な人を全て1か所に集めるといのはかなり難しい。もう少し身近な圏域の中で、地域性に合わせた柔軟性を持ったやり方が必要ではないか。

### (イ) 介護支援ボランティア活動を推進する事業について

- ・活動場所は施設でなくても、ボランティア活動の確認はできると思う。
- ・楽しくないとなかなか継続できないので、ボランティアする人も楽しめることが必要。
- ・現役のときに仕事をしてきた人が、今まで得た知識やスキルを活かして役立つということは凄く良いと思う。(ボランティアする人もされる人も)お互いが元気になる。それを施設に限定してしまうと狭くなる感じがする。
- ・ごみ出しとか、地域の住民が主体的にする助け合いとか、そういうところにも使えたら良い。
- ・自分が元気で介護サービスを使わないことが一番のポイントだと認識を持つために、教育もすごく大事である。
- ・定年後、一度家にとどまってしまうことが怖い。間を空けずにすぐに活躍する場があることが必要。介護保険料の減額で還元するのが一番わかり易いだろう。
- ・ポイントを貯めて、ここまで貯まったら、あなたはここまで到達しています、という指標のようなものがあれば、やりながら楽しめると思う。
- ・貰える物はお金とかでなくとも、例えば、「市長から表彰状を貰える」というだけでも張り合いになると思う。